

道路が結びつける人の移動、モノの輸送、情報の伝達に注目し、古代社会を具体的・立体的に復元

防人・役夫を統率した部領使、自弁で都城に向かう運脚夫、遣唐使船の乗組員など移動する人々がみた風景や、交通を支えたインフラ(道路・橋・溝)の整備等、古代社会の根幹を支えた交通体系の具体像を示す！

日本古代の輸送と道路

佐々木虔一・武廣亮平・森田喜久男 編

(古代交通研究会会長)

(日本大学教授)

(淑徳大学教授)

2019年5月20日刊行 定価(本体9,000円+税)

A5判・上製・カバー装・402頁 ISBN978-4-8406-2224-0 C3021 ¥9000E

【本書の見所(一部紹介)】多岐にわたる視点で、古代の輸送・移動の実態に迫る！

【Ⅰ部 総論／Ⅱ部 移動する人々・輸送を支える人々】

- 都城への調庸物の輸送を担った脚夫と駄馬の具体像、馬の飼育・乗馬との関係。
- 律令制下の駅伝制は、平安時代中期にどのように変容したのか。
- 西海道に赴く東国の防人、また流刑地に送られる流人など、人が移動する際にたどったルートとその引率者。
- 自弁で都に向かい、調庸物を運ぶ脚夫は、乞食となり死去した後、どのように埋葬されたのか。
- 服属したエミシ集団である俘囚の移配とその行先、新たな土地で生活するための「教育」の内容。
- 兵士や役夫などの集団や物資を統率する「部領使」の役割とは。遣唐使船を実際に動かした船員の具体像とは。須恵器の移動から読み取る交易の実像とは。

【Ⅲ部 移動を支える施設】

- 道行く脚夫を心身ともに支えた、樹木・果樹を備えた仏教施設の実像と、中国における同様の事例。
- 国司の部内巡行を支えた郡院の存在と、郡境で行われた風俗とは。

【Ⅳ部 移動・輸送を支える道路】

- 道路、橋などのインフラを支える事業に対する国家と国司の関与や、平安京内での道路・橋・堀の管理の実態。また行基の実施した土木事業。

八木書店

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
Tel:03-3291-2961 / Fax:03-3291-6300
pub@books-yagi.co.jp https://catalogue.books-yagi.co.jp/

